



ウクライナ戦争が暴いた二つのこと

国民から泥棒？

ウクライナ戦争で国防予算をGDP2%にせよ、つまり大量の武器を米国から買えとのバイデンの要求。

そこで、安倍元首相は「日銀は政府の子会社。日銀に国債を引き受けさせお札を刷れば良い」と云う。

これは「**通帳に勝手に預金額を書き加え、引き出す**」事。世の中に急にお札が増え、やがて円の価値が下がり超インフレとなる。物価が二倍になると国債を償還する時には元の価値の半分を払えば済む。斯くして庶民の預金の価値は半減。

これは庶民の財産を泥棒する事ではないか。
小麦危機

ウクライナからの小麦輸出が滞り、ロシア

も輸出を渋る。世界的に小麦不足で食料危機が叫ばれる。

でも今小麦を輸入している国は昔も輸入？
ロシア、ウクライナから小麦が全世界に輸出されるようになったのは最近の事。それまではどの国も自国で生産していたのだ。

一九六〇年代まで日本では水田の裏作に麦を栽培。春に麦が色づき穂が垂れるのを「麦秋」と呼んだ。

自由化で、現代の大農式の安い麦に他の国は対抗できなくなり、どこも麦の栽培を止めてしまった。そして今、麦がないと騒いでいる。

貿易自由化を改め、輸送コストへの税や関税を上げれば、各国で生産し消費できる。今こそ地産地消に力を入れる時では？

あなたはどうか思われませんか？

回転するシーソー噴水

東京都町田市原町田 芹ヶ谷公園

二〇二二年六月



多摩丘陵の南縁にある町田市は湧き水が豊富。それを使った大きな噴水があった。塔の中央から水が吹き出ると、シーソーのような樋に水が溜まる。やがて樋は傾き、水がぎゅーとこぼれ、くるっと回る。世界の矛盾も堪ればひっくり返ることを暗示するかのよう。

この芹ヶ谷公園には「国際版画美術館」があり「戦後日本の二つの民衆版画運動」企画展が開かれていた。一九四五年の敗戦まで、自由な芸術活動はできず殆どの人が沈黙。しかし、一九四七年には様々な芸術運動が広がっていた。その一つが、学校での木版画指導。集団で畳一枚位の大きな版画が作られていた。もう一つは「木刻」と云う日常生活に題材をとった中国の版画運動に倣った版画運動だ。

職場美術展が6月23〜30日に東京都美術館で開かれ、ジジ通信の原画などを出品します。展覧会観覧ご希望の方には招待券を送ります。

